

平成30年度全国学校保健・安全研究大会報告

日時：平成30年10月25日、26日

場所：鹿児島市民文化ホール

全大会講演

「発育期におけるスポーツの意義と課題」

日本スポーツ医学会 理事長 川原 貴 先生

日本スポーツ協会の研究班では、1964年東京オリンピック選手の健康状態や体力を4年に1回調査してきた。現在、対象者の平均年齢は75歳を超えているが、骨密度は男性が若年成人の106%、女性が若年成人の95%であり、若い人とほとんど変わらない骨密度を有している。骨密度は現在の運動習慣との関連は無く、若い時の運動経験が影響していると考えられる。

最近の児童・生徒の運動習慣等の調査において、中学生では運動しない子とする子に2極化がみられる。2017年の調査では、体育の授業以外の運動が1週間で60分に満たない者が中学2年男子で6.5%、中学2年女子で19.4%となっており、女子中学生の運動離れが問題である。一方、運動部活動等の実態調査では、1日の活動時間3時間以上の生徒が公立中学で26.5%、公立高校で30.5%と活動日数や時間が多い傾向がみられた。このような運動のやりすぎに歯止めをかける為に、スポーツ庁は、今年、運動部活動のガイドラインで週2日の休養日（平日に1日、土日に1日）を設けること、活動時間は平日2時間、休業日3時間を限度とする基準を示した。

第6課題 学校環境衛生

快適な学校環境づくりを目指す学校環境衛生活動の進め方

○研究発表① よりよい学校生活環境を整えるための取組

—児童保健委員会と進める学校環境衛生活動—

鹿児島市立武小学校 養護教諭 早田ゆかり先生

学校環境衛生活動を推進するため、学校薬剤師と連携して学校環境衛生管理の徹底や健康教育に取り組んでいる。学校薬剤師の行う環境衛生検査へのかかわりや児童委員会活動などを通して、検査を昼休みに行うなど、児童の環境衛生保持に関する意識の向上を図るための教育活動を行っている。

○研究発表② 特別支援学校の児童生徒の健康課題に応じた学校環境衛生活動を目指して

大分県立別府支援学校 養護教諭 薬師寺志保先生

特別支援学校の児童生徒は様々な基礎疾患をもち、快適な学習環境を確保することが困難な場合がある。体温調整の困難な児童生徒などに対して学校医、学校薬剤師と連携した特色のある学校環境衛生活動及び児童生徒一人一人の健康課題を踏まえた学習環境の改善を行っている。

○研究発表③ 学校環境衛生について教職員や児童生徒に関心をもってもらうために

一般社団法人 宮崎市郡薬剤師会 理事 細川寧子先生

養護教諭や保健主事と連携し、日程調整や検査測定を行っている。また、環境衛生活動を実施するにあたり、児童生徒に測定結果について説明する等の取組を実施している。